

子育て中の保護者を対象とした「冷凍食品」に関するアンケート

調査結果

令和6(2024)年度
保健福祉部医薬・生活衛生課

1. 目的

0歳～12歳の子どもを育てている子育て世代における冷凍食品の利用状況を調査し、冷凍食品に関して関心が高い項目や不安に感じている項目についてリスクコミュニケーションを実施することにより、食の安全への不安の軽減を図る。

2. 調査実施の概要

(1) アンケート期間

令和6(2024)年12月7日～17日

(2) アンケート方法

オンライン調査(インターネットにより調査票の配布、インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答、回収)

(3) 調査対象: 栃木県内在住の0歳～12歳の子どもの保護者(メルマガ会員等)14,003人

内訳

- ・メルマガ会員(1,483人)
- ・facebook(2,233人)
- ・インスタグラム(6,277人)
- ・LINE(4,010人)

(4) 回答者数

112人

(5) 回答率

0.8%

(6) アンケート委託先

会社概要

商号 株式会社ビジュアル

設立 1991年3月26日

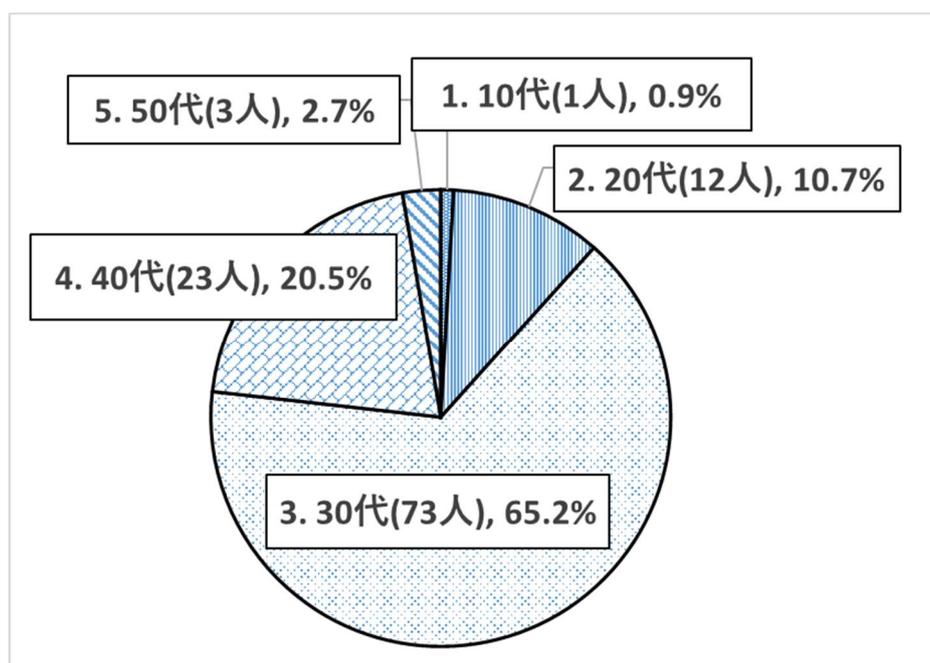
代表者 代表取締役社長 深澤明子

所在地 栃木県宇都宮市下川俣町 166-1

3. 調査の結果

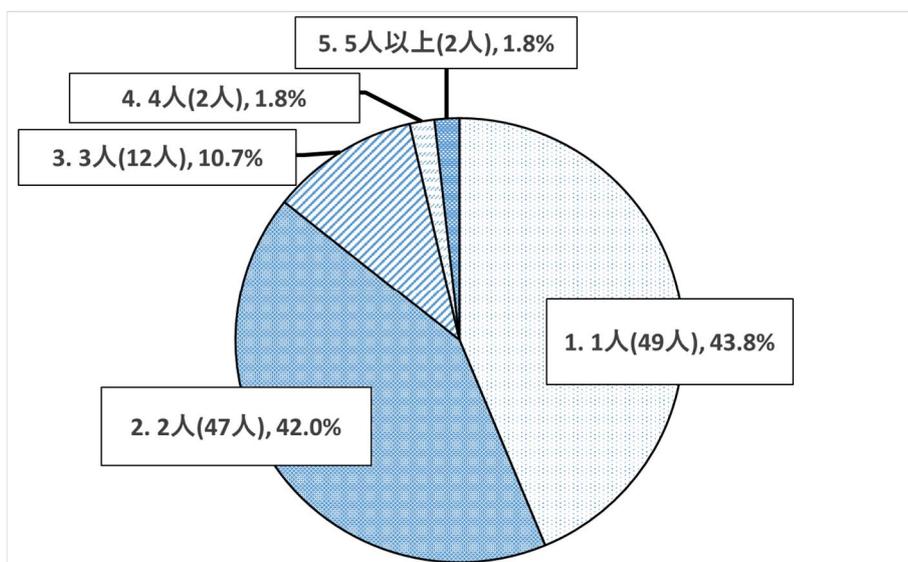
Q1 あなたの年齢は何歳ですか？

選択肢	回答者	割合
1. 10代	1人	0.9%
2. 20代	12人	10.7%
3. 30代	73人	65.2%
4. 40代	23人	20.5%
5. 50代	3人	2.7%
6. 60代以上	0人	0.0%



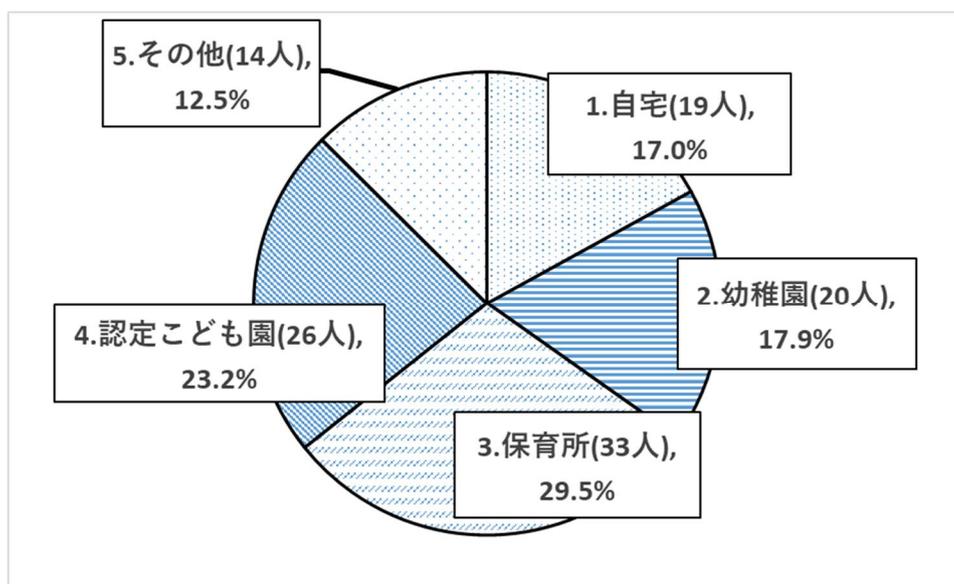
Q2 あなたのお子さんの人数は何人ですか？

選択肢	回答者	割合
1. 1人	49人	43.8%
2. 2人	47人	42.0%
3. 3人	12人	10.7%
4. 4人	2人	1.8%
5. 5人以上	2人	1.8%



Q3 お子さんの平日の保育場所は主にどこになりますか？（1つ選ぶ）

選択肢	回答者	割合
1.自宅	19人	17.0%
2.幼稚園	20人	17.9%
3.保育所	33人	29.5%
4.認定こども園	26人	23.2%
5.その他	14人	12.5%

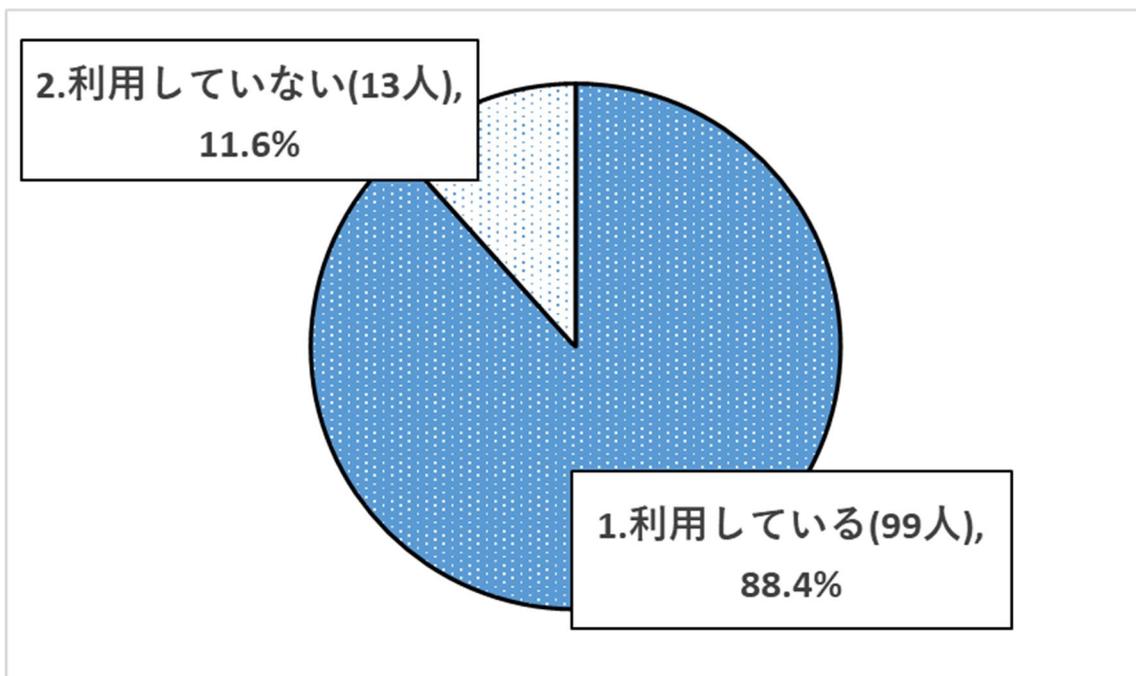


○「その他」の意見(原文を記載)

小学校、中学校、一時預かり保育

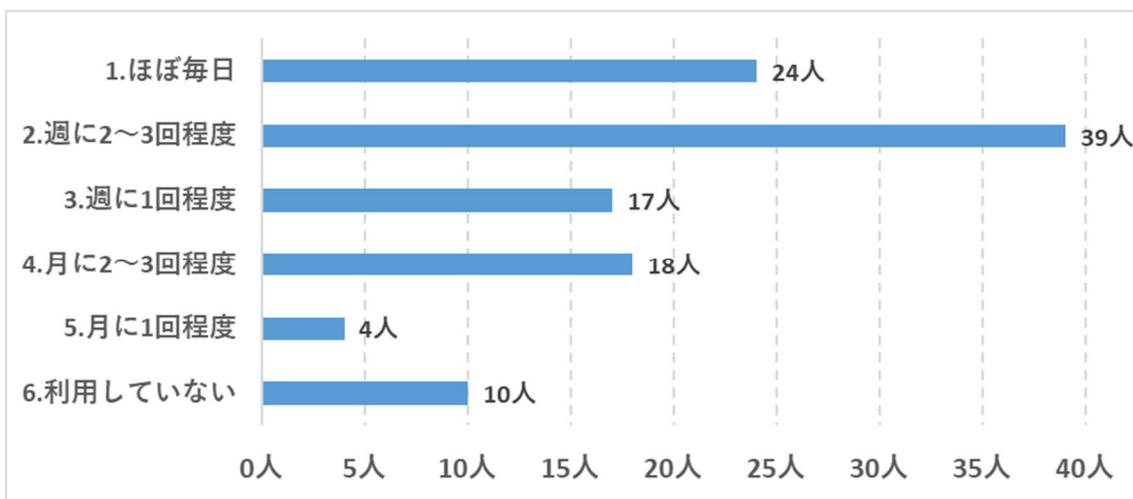
Q4 現在あなたは市販の冷凍食品を利用していますか？（1つ選ぶ）

選択肢	回答者	割合
1.利用している	99 人	88.4%
2.利用していない	13 人	11.6%



Q5 Q4 で 1(利用している)を選んだ方にお聞きします。冷凍食品の利用頻度はどのくらいですか？

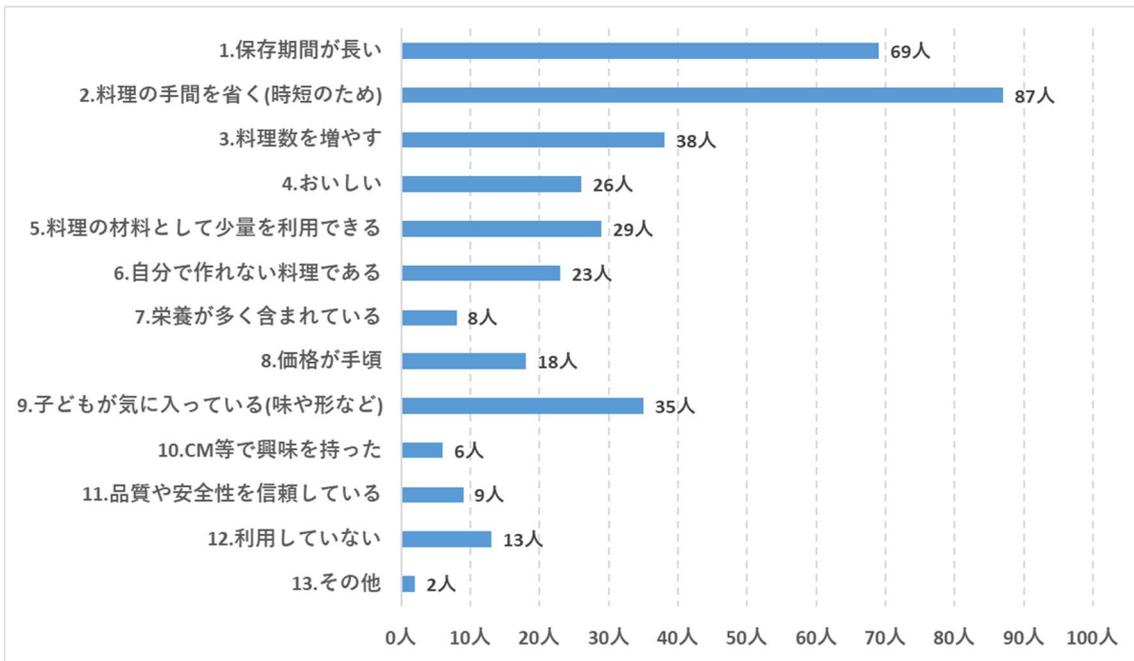
選択肢	回答者	割合
1.ほぼ毎日	24 人	21.4%
2.週に 2~3 回程度	39 人	34.8%
3.週に 1 回程度	17 人	15.2%
4.月に 2~3 回程度	18 人	16.1%
5.月に 1 回程度	4 人	3.6%
6.Q4 で 2(冷凍食品を利用していない)を選択	10 人	8.9%



冷凍食品の利用頻度の問いに対して、「週に2~3回程度」(34.8%/39人)が最も高く、「ほぼ毎日」(21.4%/24人)、「月に2~3回程度(18人)」(16.1%/18人)、「週に1回程度」(15.2%/17人)、「月に1回程度」(3.6%/4人)と続いている。

Q6 Q4 で 1(利用している)を選んだ方にお聞きします。冷凍食品を利用している理由はなんですか？(複数回答可)

選択肢	回答者	割合
1.保存期間が長い	69人	61.6%
2.料理の手間を省く(時短のため)	87人	77.7%
3.料理数を増やす	38人	33.9%
4.おいしい	26人	23.2%
5.料理の材料として少量を利用できる	29人	25.9%
6.自分で作れない料理である	23人	20.5%
7.栄養が多く含まれている	8人	7.1%
8.価格が手頃	18人	16.1%
9.子どもが気に入っている(味や形など)	35人	31.3%
10.CM等で興味を持った	6人	5.4%
11.品質や安全性を信頼している	9人	8.0%
12.Q4で2(冷凍食品を利用していない)を選択	13人	11.6%
13.その他	2人	1.8%



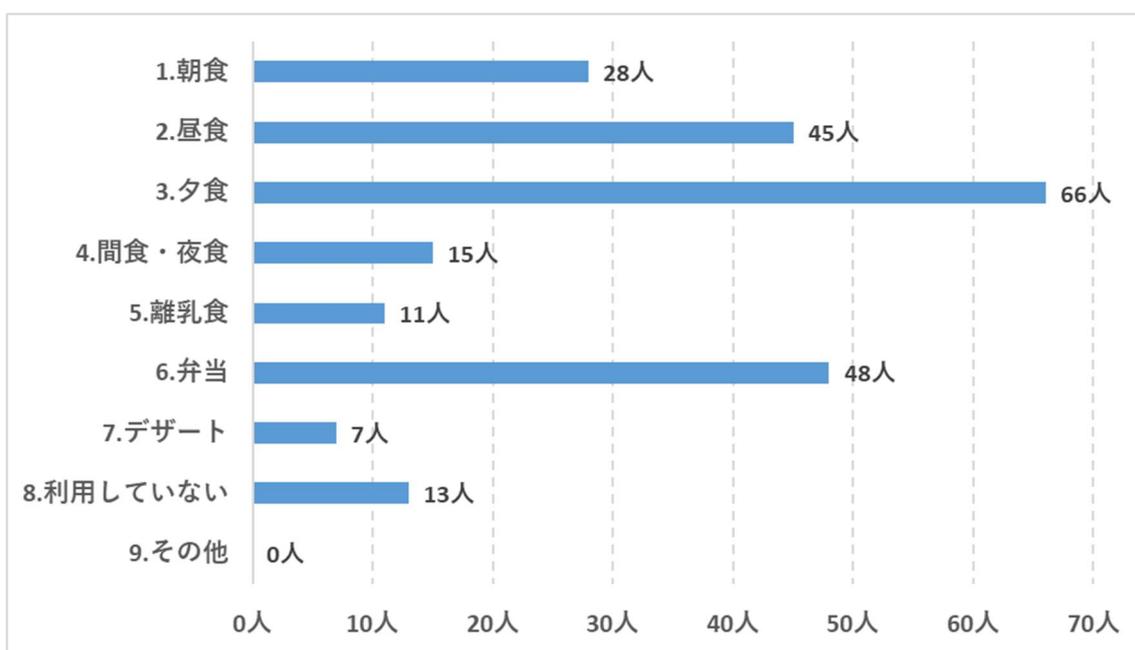
冷凍食品を利用している理由の問いに対して、「料理の手間を省く(時短のため)」(77.7%/87人)が最も高く、「保存期間が長い」(61.6%/69人)、「料理数を増やす」(33.9%/38人)、「子どもが気に入っている(味や形など)」(31.3%/35人)と続いている。

○「その他」の意見

- ・スーパーへ行けなかった時やおかずが無いときに備えるため
- ・ワンオペワーママのため調理している時間がないため

Q7 Q4 で 1(利用している)を選んだ方にお聞きます。冷凍食品をどの食事に利用しますか？(複数回答可)

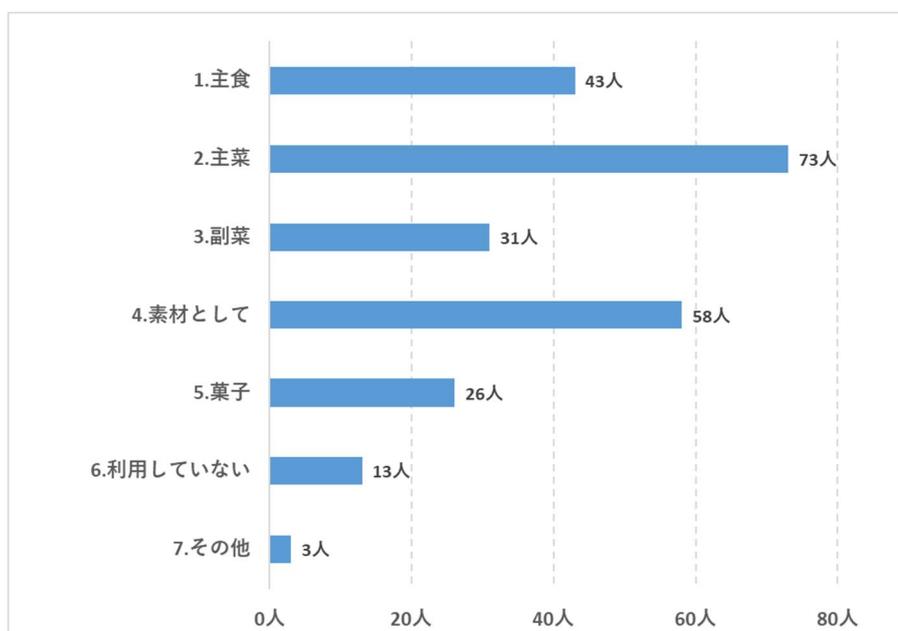
選択肢	回答者	割合
1.朝食	28人	25.0%
2.昼食	45人	40.2%
3.夕食	66人	58.9%
4.間食・夜食	15人	13.4%
5.離乳食	11人	9.8%
6.弁当	48人	42.9%
7.デザート	7人	6.3%
8.Q4 で 2(冷凍食品を利用していない)を選択	13人	11.6%
9.その他	0人	0.0%



冷凍食品をどの食事に利用するかの問いに対して、「夕食」(58.9%/66 人)が最も高く、「弁当」(42.9%/48 人)、「昼食」(40.2%/45 人)、「朝食」(25.0%/28 人)と続いている。

Q8 Q4 で 1(利用している)を選んだ方にお聞きします。どのような品目の冷凍食品を利用しますか？(複数回答可)

選択肢	回答者	割合
1.主食(チャーハン、ラーメン、パスタなど)	43 人	38.4%
2.主菜(ハンバーグ、唐揚げなど)	73 人	65.9%
3.副菜(おひたし、煮物など[主に野菜、きのこ、芋、海藻類などを使った料理])	31 人	27.7%
4.素材として(冷凍肉、冷凍野菜、冷凍果物など)	58 人	51.8%
5.菓子(今川焼き、パンケーキなど)	26 人	23.2%
6.Q4 で 2(冷凍食品を利用していない)を選択	13 人	11.6%
7.その他	3 人	2.7%



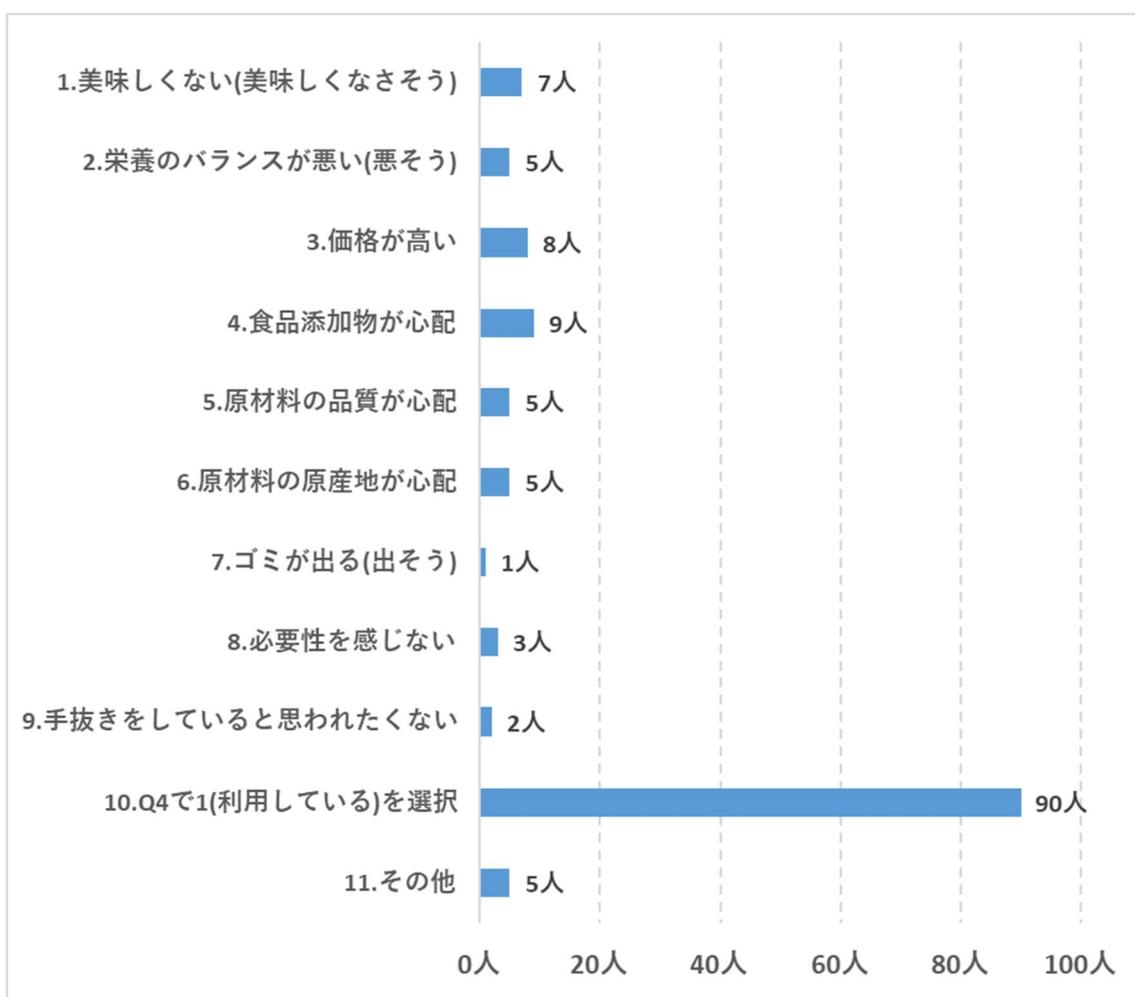
どのような品目の冷凍食品を利用しているかの問いに対して、「主菜(ハンバーグ、唐揚げなど)」(65.9%/73人)が最も高く、「素材として(冷凍肉、冷凍野菜、冷凍果物など)」(51.8%/58人)、「主食(チャーハン、ラーメン、パスタなど)」(38.4%/43人)と続いている。

○「その他」の意見(原文を記載)

たこ焼き、お好み焼き、ポテト

Q9 Q4 で 2(利用していない)を選んだ方にお聞きます。冷凍食品を利用していない理由は何ですか？(複数回答可)

選択肢	回答者	割合
1.美味しくない(美味しなさそう)	7人	6.3%
2.栄養のバランスが悪い(悪そう)	5人	4.5%
3.価格が高い	8人	7.1%
4.食品添加物が心配	9人	8.0%
5.原材料の品質が心配	5人	4.5%
6.原材料の原産地が心配	5人	4.5%
7.ゴミが出る(出そう)	1人	0.9%
8.必要性を感じない	3人	2.7%
9.手抜きをしていると思われたくない	2人	1.8%
10.Q4 で 1(利用している)を選択	90人	80.4%
11.その他	5人	4.5%



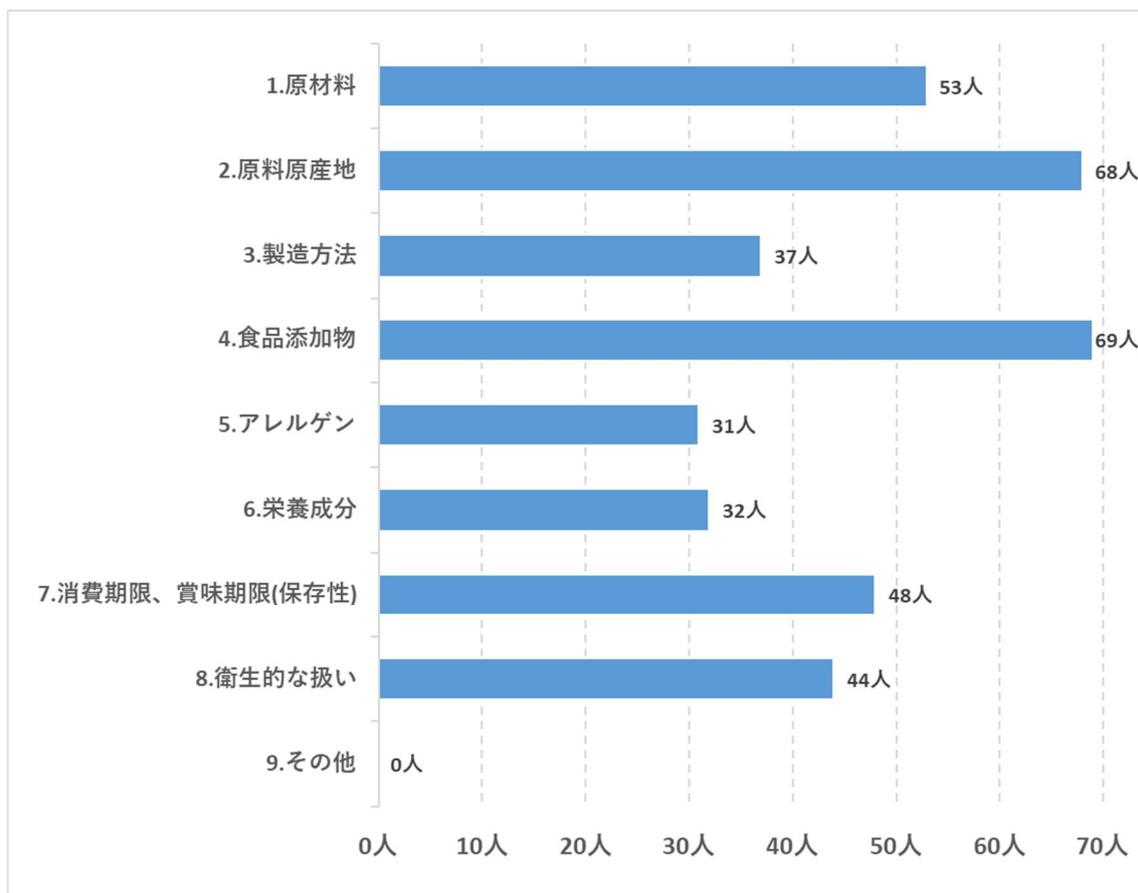
冷凍食品を利用していない理由の問いに対して、「食品添加物が心配」(8.0%/9人)が最も高く、「価格が高い」(7.1%/8人)、「美味しくない(美味しくなさそう)」(6.3%/7人)と続いている。

○「その他」の意見(原文を記載)

- ・利用している
- ・母は好きだが、子どもが敏感で、たまに買ってみてもバテて食べてくれないため

Q10 冷凍食品の安全性などについてどのようなことを知りたいですか？(複数回答可)

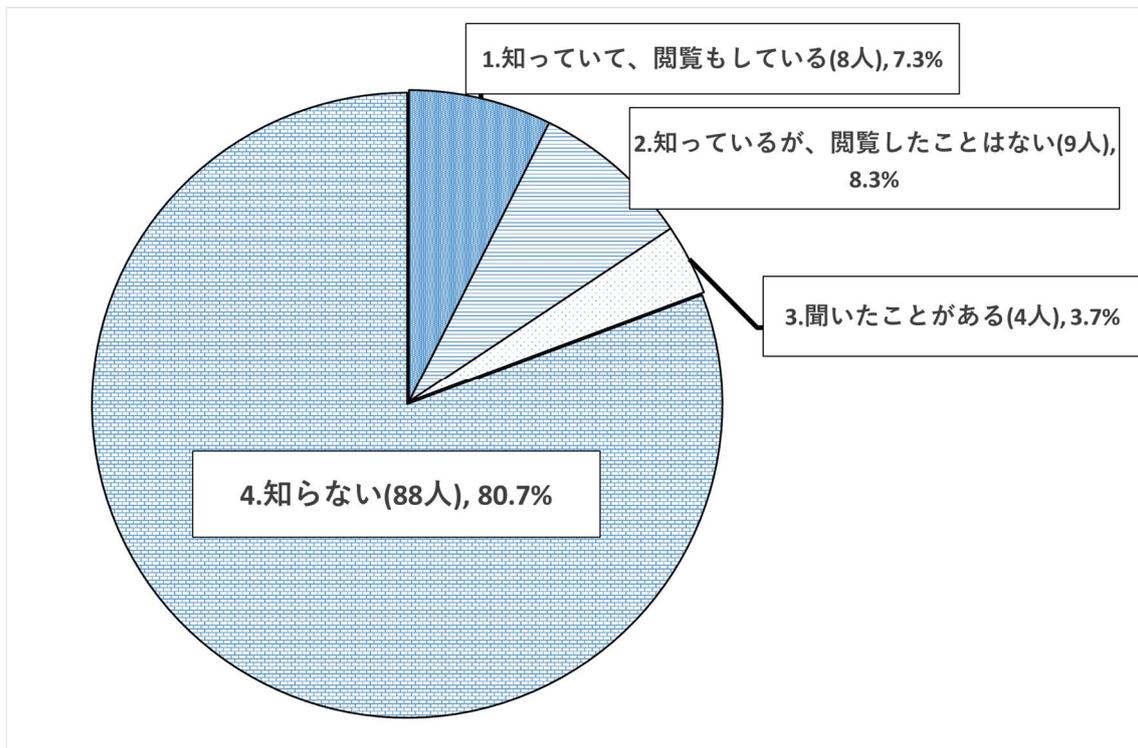
選択肢	回答者	割合
1.原材料	53 人	47.3%
2.原料原産地	68 人	60.7%
3.製造方法	37 人	33.0%
4.食品添加物	69 人	61.6%
5.アレルギー	31 人	27.7%
6.栄養成分	32 人	28.6%
7.消費期限、賞味期限(保存性)	48 人	42.9%
8.衛生的な扱い(解凍方法、取り分け、冷凍焼けなど)	44 人	39.3%
9.その他	0 人	0.0%



冷凍食品の安全性などの知りたい内容の問いに対して、「食品添加物」(61.6%/69 人)が最も高く、「原産地」(60.7%/68 人)、「原材料」(47.3%/53 人)、「消費期限、賞味期限(保存性)」(42.9%/48 人)と続いている。

Q11 栃木県では「とちまる食の安全通信」をSNS(Facebook、X(twitter)、YouTube)にて運営しています。閲覧したことがありますか？(1つ選ぶ)

選択肢	回答者	割合
1.知っている、閲覧もしている	8人	7.3%
2.知っているが、閲覧したことはない	9人	8.3%
3.聞いたことがある	4人	3.7%
4.知らない	88人	80.7%



「とちまる食の安全通信」に関する問いに対して、「知らない」(80.7%/88人)が最も高く、「知っているが、閲覧したことはない」(8.3%/9人)、「知っている、閲覧もしている」(7.3%/8人)、「聞いたことがある」(3.7%/4人)と続いている。

3. 考察

(1) 回答者について

・Q2 について

子どもの人数は、1人(43.8%)、2人(42.0%)、3人(10.7%)の順であり、令和5(2023)年国民生活基礎調査(厚生労働省調べ)^(*)1)の1人(8.8%)、2人(7.2%)、3人以上(2.1%)と同じ順であった。

・Q3 について

平日の保育場所は、保育所(29.5%)、認定こども園(23.2%)、幼稚園(17.9%)、自宅(17.0%)の順であり、平成30年度幼稚園・保育所等の年齢別利用者数及び割合(文部科学省調べ)では保育園(36.5%)、幼稚園(20.4%)、幼保連携型認定こども園(10.1%)であった。

(2) 冷凍食品について

・Q4 について

一般社団法人日本冷凍食品協会が令和6年2月に実施した調査^(*)2)(“冷凍食品の利用状況”実態調査(以下「冷凍食品実態調査」という。))では、女性の回答が「冷凍食品をほとんど又はまったく使わない」(13.5%)、「冷凍食品を使う」(86.5%)という結果であった。冷凍食品実態調査と比較すると、冷凍食品を利用していないとの回答の割合が低く(13.5%→11.6%)、今回の調査対象を0歳～12歳の子どもがいる母親に絞ったことが影響していると考えられる。

・Q5 について

冷凍食品実態調査では、冷凍食品を利用する頻度として、女性の回答が「ほぼ毎日」(10.0%)、「週2～3回」(25.5%)、「週1回」(22.4%)、「月2～3回」(16.9%)、「月1回」(12.0%)という結果であった。一方、今回のアンケート結果では、「ほぼ毎日」(21.4%)、「週2～3回」(34.8%)、「週1回」(15.2%)、「月2～3回」(16.1%)、「月1回」(3.6%)という結果であった。

今回の調査対象が子育て中の母親であることから、育児などにより限られた時間の中で食事を準備する際に頻繁に冷凍食品を利用していることが考えられる。

・Q6 について

冷凍食品実態調査では、冷凍食品の魅力として、女性の最も多い回答が「調理の手間が省ける」(63.7%)であった。同様に今回のアンケート結果においても、冷凍食品を利用している理由として、「調理の手間を省く(時短のため)」(77.7%)が最も多い回答であった。

このことから、育児等の影響により母親は、冷凍食品の役割として「調理の手間を省く」ことを一般の方よりも期待する傾向があると推測される。

・Q7 について

冷凍食品実態調査では、冷凍食品を利用する食事として、女性の回答のうち「自宅で食べる夕食」(58.4%)、「自宅で食べる昼食」(48.2%)、「お弁当用」(37.6%)が主な結果であった。

今回の結果では、昼食(40.2%)よりも、お弁当用(42.9%)に冷凍食品を利用することから、子どもや自分のお弁当用に冷凍食品を利用する傾向があると考えられる。

・Q8について

利用する冷凍食品の品目として、「主菜(ハンバーグ、唐揚げなど)」(65.9%)が最も多いことは、冷凍食品を主菜として利用することで調理の手間を省きたい傾向にあると考えられる。

・Q9、Q10について

令和6(2025)年度栃木県政世論調査^(*3)では、食品の安全性について最も不安に思う項目が「食品添加物」(60.9%)であったことから、一般食品だけでなく冷凍食品においても同様の傾向であることが推測される。

また、冷凍食品では原料原産地への関心も高く、過去の冷凍食品に関する事件が影響している事が考えられる。

(3)「とちまる食の安全通信」について

「とちまる食の安全通信」を「知っていて、閲覧もしている」が、7.3%と依然として認知度は低い。更なるPR活動が必要であると考えられる。

4. 結論

冷凍食品は、子どもをもつ母親において広く利用されていることが示された。また、冷凍食品を夕食や昼食だけでなくお弁当用に利用していることも示された。

食品全般について、多くの消費者が食品添加物に対して不安を抱いていることが令和6(2024)年度栃木県政世論調査の結果で示されている。今回の冷凍食品も同様の結果が得られており、子育て世代(保護者)が冷凍食品の食品添加物に対して不安を抱いていることが改めて示された。また、食品添加物と同程度、冷凍食品の原料原産地に不安を抱いていることも併せて示された。

食品の役割や機能等の情報提供が消費者のリスク認知に影響を与え、消費者行動に現れることが示されていることから^(*4)、行政側から流通食品に関するリスク管理について説明するだけでなく、食品等関連事業者から冷凍食品の製造工程、使用意義、利点を説明した後に参加者による意見交換会を実施することが、冷凍食品に対する不安軽減に有益であると考えられる。

*1: 2023(令和5)年 国民生活基礎調査

*2: “冷凍食品の利用状況”実態調査結果について 一般社団法人 日本冷凍食品協会

*3: 令和6(2024)年度栃木県政世論調査

*4: 保存料に関するリスク情報・ベネフィット情報の提供が消費者行動に与える影響

日本リスク研究学会誌 22(4)2012.